

しんさいの時の新聞

わたしは、みよしさんが言っていたまどが  
全かいした時、その時に京都新聞で新聞製作  
をとっさにしたその行動はとてもすごいなと  
思いました。そしてその内ようも死者や不明  
の人ばかりではなく、はかましの言葉、役立  
つ事など、ひなんしている人々に喜んでもら  
える事をしました。いろんな人は地震でパニ  
ックなはずなのにそんな中冷静にみんなに新

神戸海星女子学院小学校

聞をあげるのはやさしくて冷静なみよしさん  
にしかできないと思います。そのような事が  
ら、最近私はそなえも大切ですが、もし地震  
になつた時にパニックになつてどこに行つた  
らいいかなどそうなっている時に新聞やラジ  
オなどで役立つじよう報があるのは力強いな  
と思いました。

そして私はいつもかんばんで新聞を出す仕  
事が気に入りました。仕事は大変だと思いま  
すか、みんなそのとても明るいい光となる新聞

を待ち望んでいると思います。もし、新聞を  
作る人や、ラジオをやる人がいなければ、生  
きている人も少なかったでしょう。とてもこ  
のしんさい公えんかいに感動しました!! 時間  
をかけて教えていただけありがとうございま  
した。

# 震災講演会

わたしは震災講演会で阪神・淡路大震災に  
ついでのお話を聞いて思いました。たことやびくりに  
したことが二つあります。  
一つ目は死者が六百三十四人もいるという  
ことです。わたしはもう少し少ないのかなと  
思っていました。公立小学校の児童生徒だけ  
でも百八十人もいることほとても悲しか  
たです。ドラマを見せてもらったときははり  
た。

神戸海星女子学院小学校

ルだ。たので、少しこわか、たです。  
二つ目は、犠牲者の生きた証が残さなくて  
たという事です。新聞には、例えば地震が  
起こりました。今のじょうきょうはこんなか  
んじです。みたいたと思、ていましたか、実  
際には、震災できづついでしま、た人が元氣  
になるような記事を書いていて、すごいんだ  
なと思、いました。

阪神淡路大震災を未来へつなぐためにも  
いろいろなことを知りたいです。

わたしは震災講演会を聞いて心に残った事  
が一つあります。

一つ目は地震が起こったときのことです。  
その中で、わたしは死者6434人と言ったこ  
とに一番おどろきました。

2つ目は、火事が起こったことです。わた  
しは地震の事しか知らなかったのです。当時の  
ことを知れて良かったです。

神戸海星女子学院小学校

3つ目は、被災者へのやさしさや助けまし  
です。当時の天皇陛下と皇后さまが見送る人  
たちに手をふられたり、皇后さまが少女をだ  
いているところがすてきでした。

みよしさんとあかりさんの話を心にとめて  
次に起きる地震にやなえていきたいです。

阪神・淡路大震災でまなんだこと

私は、阪神・淡路大震災でまなんだことが  
あります。

一つ目は、家族とお友達をたいせつにする  
ことです。

阪神・淡路大震災で家族を失った人や、お友  
達とあえなくなったり人もいます。わたしは、  
そんな人をささえてあげたいです。私もいす  
れ家族を失うかもしれないので、家族やお友

神戸海星女子学院小学校

達をいまたいせつにしたいです。

あと、阪神・淡路大震災で死んでしまっ  
た人を思っ、て生きていきたいと思います。

震災講演を聞いて

昨年、石川県で能登半島地震が起き、たくさんの方がでました。今回の講演を聞いて、阪神淡路大震災では、その能登半島地震を上回るたくさんの方が神戸でも出ていたことを知り、おどろきました。

また、そんな大災害で、大ぜいのボランティアの方により、被災地で困っている方々が助けられたことを知り、感銘を受けました。

神戸海星女子学院小学校

私も、大きな地震などの災害が起きたときにはかけつけて、人を助けようという力を付けてたいです。

震災講演会を終えて

私は今日、震災講演会を終えてきおくに残  
っていることが一つあります。

それは、「災害関連死」です。せつかく地  
震・津波・火災による被害をまぬがれたのに  
病气や、感染症などで亡くなってしまうた人  
が死者のほぼ半分もいたのに、すぐおどろき  
ました。避難場所に無事到着できたとしても  
中だんはできないのだなと思いました。なの

神戸海星女子学院小学校

て、家に帰ったら防災バツグの中にマスクが  
ハッぱい火っっているか確認しておこうと思ひ  
ます。

私はいつおこるか分からない地震にたいし  
よすることほすぐく難しいことだと改めて思  
いました。今日記者の人たちがいつていた、

「防災に終わりはない。」  
というようにこまめにチェックし、たらな  
ものがあれば買うように心がけたかと思ひま  
す。

30年前、今ごろ神戸は

わたしは、今日のこうしゅう会で、私たちが知らなかつたことを、たくさんおしえてもらいました。とくにしようけき的だったのが神戸だけ、六千四百三十四人も死者が出たことです。よく、ニューヨークで泣いている人とくとうしゃっている人、花束をささげている人、またくさん見かけます。もし、私のお母さんが亡くなつていたら、私は生まれませんでしたが、そう考えると、かんしゃの気持ちでいっぱいになります。

そして、まっかにもえている、家の画像も見せてもらいました。その人のことを考えるとおむねが執くなり、かなしくなりました。

なので、今回のこうしゅう会で学んだことと、人分の子供などに、伝えていくようにしたいです。せつたいにこのことはお忘れずにはいけないとおもいます。

阪神・淡路大震災について

わたしは今日、阪神・淡路大震災について  
知りました。なにを知ったかというところ、大変  
さについて知りました。

当時、じしんがおきたとき、日本はなにも  
たいさくができていませんでした。あの日は  
日本はじしんにむかっていたらむかえず、なん  
のすべもありませんでした。だから大変だとい  
ういみもあります。そのときは、たても

神戸海星女子学院小学校

のもなくすれ、人も生きうめになり、大火事にも  
なりました。だからそここんなときにきず  
ながためされるんだと思います。あのときは  
本当にみんなのききだ。たのです。

ですがみんなでききをのりき。て、大変さ  
もなくな。たと思います。今の日本は前の日  
本とはちがう。そのこともかんじれたらなと  
思いました。

震災講演会で話を聞いて

わたしは、話を聞いて、改めて地震は恐ろしいことだと思いました。平和な日常が急に変わってしまったことがあると思えば、本当に怖いと思います。阪神・淡路大震災を体験した人は怖かったと思います。家族がなくなると悲しかったり、心細かった人もたくさんいたと思います。また、わたしは、大地震を経験したことがないのですが、分からないけれど、今日の説明を聞いて本当にすごい地震だったことは分かりました。今後、南海トラフがこないことを願います。たとえても生き残るようになえをしとおきたいと思います。

神戸海星女子学院小学校

たくさんの気持ち

三好さんのお話を聞いて、阪神・淡路大震災の時のこわさと新聞を作るたいへんさを知りました。

一つのこわさとはどんなこわさかというところ、何が起こるか分からないこわさです。三好さんも、会社の後輩を待っていたらいきなり自震が来たら、ひなん訓練のように身を守れるのか心配になりました。しかし、そこで身を守れても、阪神・淡路大震災のように火事が起つて火事にまきこまれるかもしれないので、ますます心配になりました。改めて、自分を家族を、友達の命を守るためには何が出来るのか、という言葉がとも心に残ります。

神戸海星女子学院小学校

もう一つの新聞を作るたいへんさは改めて知りました。三好さんが災害報道を行うとき、気をつけていることの、読者に役立つ事、安心守心な事をのせることに、私は感動しました。

た。いままで新聞記者は聞いた事をまとめる  
だけだと思っ、ていましたが、今は読者の気持  
ちにそっ、て新聞を書いていろすてきな仕事だ  
と思っ、ています。

また、京都新聞との災害協定して、京都新  
聞社で新聞製作出来たのはすばらしい運だと  
私な思っ、ています。

このように、自震の時には、みんなが協力  
する事、人の気持ちになっ、て考えることが大  
切だと考えます。

神戸海星女子学院小学校